

令和6年度 第1回 東海村歴史と未来の交流館運営協議会会議録

1	開催日時	令和6年9月6日(金) 18時から19時35分まで
2	場所	東海村歴史と未来の交流館 活動室2
3	出席者 (敬称略)	<委員> 小野寺淳, 佐藤孝博, 塩谷修, 瓦吹堅, 飛田公子, 小金沢知己, 大内啓至, 川崎寿則, 大口武文, 鈴木絵美 <事務局> 河西徹雄(教育部長), 深見孝志(生涯学習課長兼東海村歴史と未来の交流館長), 安嶋隆(東海村歴史と未来の交流館副館長兼博物館長), 豊嶋潤(生涯学習課課長補佐), 安美穂(生涯学習課課長補佐), 藤田敬(生涯学習課課長補佐), 中泉雄太(生涯学習課主任), 高増慧(生涯学習課主事)
4	欠席者 (敬称略)	—
5	公開又は 非公開の別	公開
6	非公開の理由	—
7	協議・説明事項	・令和5年度の事業報告について ・令和6年度の事業計画(案)について
8	配布資料	・【資料①】令和5年度東海村歴史と未来の交流館年報(案) ・【資料②】令和6年度東海村歴史と未来の交流館事業計画(案)
9	発言内容	東海村歴史と未来の交流館運営協議会設置要綱第5条の規定により, 会長に小野寺淳氏, 副会長に佐藤孝博氏を選出。 ■議事進行: 小野寺会長 (1) 令和5年度の事業報告について ○ 配付資料の説明…資料① 会長) 説明ページが行ったり来たりするので, 次回からはページ順に説明をすることを検討してほしい。 事務局) 拝承。 委員) とうかいまると博物館事業の講座数(11頁から15頁)が多すぎる。これほどまでの講座数は他の博物館では行っていない。学芸員は全事業に関わっていると思われるが, この

	まま酷使されると健康を害する。働き方改革に逆行しているので、管理職が事業の在り方を再考してほしい。 事務局) 学芸員が全事業に関わっているわけではないが、今年も約120講座を予定しており、数が多いということは否めない。歴史と未来の交流館を建設した時の経緯から、多くの人を呼ばなくてはならないという思いで事業をどんどん実施してきたが、働き方改革という視点で見ると是正していかなければならないと思う。 委員) 施設が開館して3年から5年までの間は、より熱心に事業に取り組むべき時期であるということは理解するが、相当な時間外勤務が生じていると思われる。学芸員が全事業に関わっているわけではないとのことなので、今後の資料には、生涯学習課主催で実施している事業は全事業のうち〇〇件であるといった書きぶりにしてはどうか。 事務局) とうかいまると博物館事業の講座の中には、原子力関係の団体や東海村の他課が主催者となっているケースもある。資料の見せ方は今後検討したい。 副会長) ボランティアが多く関わっている事業もあり、事務局とボランティア間で協力体制が構築され、事務局の負担軽減が図れている状況もある。他の委員の皆様にはそのようなケースもあるということをご理解いただきたい。 会長) ボランティアが関わっている事業があるということも次回の報告書には記載してほしい。 委員) 購入費(22頁)とはどのようなものか。 事務局) 資料購入費で、村予算を原資に基金から支出している。 委員) 全国的にみると、資金難から資料購入がままならない博物館も散見されているなか、行政がしっかりと予算措置していることは素晴らしい。 会長) 同感である。次回の報告書にはその辺りを強調して説明してほしい。 委員) 購入費は事業費に含まれているのか。 事務局) 含まれている。
--	---

	【結果：令和５年度の事業報告】 承認 （２）令和６年度の事業計画（案）について ○ 配付資料の説明…資料② 委員）とうかいまるごと博物館事業の講座数は１２０で，交流館主催講座が増加しているという理解でよいか。 事務局）ご認識のとおりである。 委員）とうかいまるごと博物館事業の活動の様子が写真や動画で確認できるとよいと思う。 会長）学校連携事業について，学校からの依頼により実施しているということだが，学校はカリキュラムを決める時期が早く，年度途中に組み入れるのは難しいと思うが，学校との調整はどうしているのか。 事務局）この事業は令和４年度から実施していることから，学校側は前年度の授業を参考にして計画を立てている。また，事例集を配布することで，他の学校のカリキュラムに取り入れる際の参考にしてもらっている。 委員）勤務先の小学校では，社会と理科の分野で学校連携事業を行っている。実際の物に触れたり，施設を訪れたりしながら専門知識を持つ生涯学習課の職員の方が熱心に説明してくださり，学校としては大変ありがたく思っている。通常の授業を急遽変更して学校連携事業に取り組む時もある。 委員）年度途中でも組み入れられるのは，総合的な学習の時間を活用しているからである。 会長）村が学校に協力して授業を行うケースは，県内でも非常に珍しく，他自治体では学校からの理解が全く得られないケースが多い。校長先生をうまく取り込めたことが成功の要因ではないか。自慢すべきことである。 委員）学校が指導案を作成しているとの説明があったが，先生は指導案を作成することができるのか。 事務局）教員ＯＢの理科専門活動員と社会教育主事が相談に応じており，前年度の指導案や事例集を参考にしながら作成しても
--	---

	らっている。先生は異動もあることから、事業の継続性への理解を求めるため、年度当初の校長会等で周知している。 委員) 授業となると、子供たちは書くことに夢中になり、記憶が欠落してしまう場合がある。子供たちが書かずに、記憶できるような説明を心掛けてほしい。 委員) 私の職場では、秋に学校にメニュー表を送り、年度初めにメニューを正式決定している。働き方改革の観点からも実施回数の上限を定めてもよいと思う。 事務局) 議事の冒頭で、会長より説明ページが行ったり来たりするとの指摘があった。この点については次回の協議会から改善していきたい。とうかいまると博物館事業については、専門誌を配布させていただいたので、そちらを確認することで活動の様子等もご理解いただけるのではと思う。 会長) 本日は議事進行及び長時間のご審議にご協力いただき感謝申し上げます。職員においては健康に留意し、実りある活動ができることを願っている。 【結果：令和6年度の事業計画（案）】 承認
10 今後の予定	令和6年度第2回は2月中旬に開催予定。 協議内容は令和7年度の事業計画等を予定。